

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ー)

事業所番号	0690400312		
法人名	特定非営利活動法人ひのき		
事業所名	グループホームあすなる白旗		
所在地	山形県米沢市大字三沢字白旗18-26113番地		
自己評価作成日	令和 4年 12月 29日	開設年月日	令和 3年 5月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念に掲げている「こころの通う介護」を念頭に置き、家庭的な雰囲気大切に、個人の意思を尊重、生きがい・楽しみ・役割・ふれあいを常に持ち続けられるような支援に取り組んでおります。利用者、職員共に笑顔の絶えない事業所が自慢です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 1月 26日	評価結果決定日	令和 5年 2月 9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員で利用者にとって何が重要なことを話し合い、生きがい、楽しみ、役割、ふれあいを持ち続けられるよう目標を定め支援しています。コロナ禍のため外出が制限されるなか、周辺の散歩で近所の方とあいさつを交わし、家族等との面会では短時間でも顔を合わせ笑顔で会話をしています。季節に合わせた手作りの食事は毎日の楽しみとなっており、音楽に合わせて体を動かすミュージックケアで運動機能の維持を図っています。毎月のかかりつけ医の往診は家族等の安心に繋がり、研修を通して認知症の理解を深め、利用者の意思を尊重しながら家庭的な雰囲気を大切にして笑顔で穏やかに暮らせるよう理念「こころの通う介護」を目指している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部 項 目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で事業所理念を共有できるように、目につくところ理念を掲示してそれを目標として日々のケアに努めている。	利用者から「ここに入れて良かった」と言われるよう職員は毎月のミーティングの中で理念・ケア目標が日々のケアの中で活かされているかを振り返り、話し合っている。利用者一人ひとりの意思を尊重し家庭的な触れ合いを大切に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で、例年より地域の方々との交流の機会は減ってはきているが、地域の方々との開設当初より良い関係を築けている。	コロナ禍のため以前と同じような交流は出来ていないが散歩でのあいさつや災害時の協力関係、回覧版での情報収集などを通して地域との繋がりを大切にしている。認知症について地域住民からより理解を深めてもらうための発信を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの研修を受講した職員がいる為、今後認知症サポーター養成講座等を通して、地域の方々へ認知症について発信していきたいと思っている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業所の取組みを報告して、メールで意見や質問等も聞きながら、そこで得た貴重な情報を職員間で共有して、サービスへ取り入れるようにしている。	メンバーは家族代表・地区長・市・地域包括支援センターとなっており、今年度は書面開催として利用者状況・受診・行事・事故ヒヤリハット(個々の事例を記しその対応を報告)・研修・コロナ対策など詳細に報告している。ワクチン接種の質問に対しては協力医往診時に都度実施していることを報告し、メンバーの理解は十分に得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時等、意見質問を交換したりして事業所と市役所間の協力関係を気づけている。	運営推進会議報告により事業所状況について理解を得ており、相談事への対応、メールによる情報提供などを通して協力関係を築き、キャラバンメイト養成研修への参加や職員用抗原検査キット受領など情報を活かしている。生活保護の方も受け入れており、市担当者と連携して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>3カ月に1回、適正化委員会を開催して、職員間で身体拘束について話し合う機会を設け、また内部研修で身体拘束の研修会を開いて、職員の意識と理解を深めている。</p>	<p>身体的拘束等の適正化のための指針を定め、職員全員参加の身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催し、センサー設置についての検討や身体拘束に伴う弊害などを話し合っている。内部研修では「身体拘束のないケアについて」を動画等を通して学んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>半年に一回虐待の研修会を開いて、虐待についての意識と理解を深めている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見人制度を利用している利用者様がいらっしゃる為、制度の理解を深めている。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族へ十分な説明を行い、理解して頂いた上で契約等を行っている。</p>	/	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コロナ禍で面会がなかなかできない状況にあるが、毎月のお便りで利用者様の様子をお伝えすると共に要望を伺っている。</p>	<p>毎月のお便りで暮らしの状況・受診結果などを知らせ、利用者の食事や活動時の写真を「あすなろ白旗」に掲載し家族等の安心に繋がっている。コロナ禍で時間等制限された面会だが利用者と家族等が顔を合わせ、話が出る機会をつくっている。連絡時や面会時などに聞いた「外出させてほしい」「一緒に食事をしたい」などの要望は検討している。</p>	<p>コロナ禍のため面会等が制限されている中、家族等とのコミュニケーションを深めるため広報紙に顔写真を載せるなど職員の顔が見える関係づくりを更に進めることに期待したい。</p>
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員間のコミュニケーションを図り、気軽に意見を言えるような雰囲気づくりをしている。また、月一のミーティングでも意見を交わしたりしている。</p>	/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の成果は管理者から代表者へ報告。管理者の評価に当たっては代表者が把握するという体制を行っている。</p>			
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の職員の経験や習熟度に合わせて研修の機会を積極的に設け、資格取得を推奨している。研修後は資料の閲覧等で共有して、スキルアップを図っている。</p>	<p>毎月研修計画に沿いミーティング時に全職員で参加して内部研修を行い、テーマに沿った動画を利用して介護の質・技術の向上を図り、その内容や課題・問題点を話し合っている。外部研修に派遣し、資格取得を奨励し、互いに学び・話し合い働きやすい環境を整えている。</p>		
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>以前までグループホーム連絡協議会の研修に参加したり交換実習を行ったりしていたが、現在はコロナ禍にあつて法人内だけの研修に留まっている。</p>	<p>コロナ禍のため同業者と交流する機会はほとんどない。法人で行うミュージックケア研修会や管理者会議などが法人他グループホームと交流や情報交換できる数少ない機会となっている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始前に十分なアセスメントを行い、本人の要望などを確認している。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始前にご家族に本人の状態の確認と共に、ご家族としての要望などを十分に聞く様努めている。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初回面接又は利用開始直後などの段階で聞き取りを行い、他サービス利用も含めた話し合いを行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物などの家事を職員と共に行い過ごしていきける生活を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナの影響にて面会制限している状態ですが、毎月のお便りなどで各担当者が日々の生活を分かるようお知らせしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナの影響で色々な制限はあるものの、出来る限り利用者の親戚などとの交流を計らい、電話や手紙などの方法で関係継続をお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などを考慮し話しやすい食席にしたり、出来る限り穏やかに過ごせるような関わり合いが出来る環境作りやサポートをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャーや管理者と協力し、契約終了後であっても家族の相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当による本人の意向の把握または都度関わった職員による意向の把握を様々な方法にて出来る限りの希望に添えるよう努めている。	入居時の心身の状態や生活状況・環境の情報、課題を共有し、日々の関わりでの気づきを申し送りやタブレットに書き込むことで利用者の現状を職員全員が把握し、また意向を表出できない方は家族等の意向をベースにコミュニケーションをとり対処している。利用者が満足して生活できるよう意思を尊重した支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人に介護サマリーを作成し職員全員が利用者の生活歴や生活環境の把握の共有が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をしっかりと取り交代勤務の中でも、日々変わりゆく利用者の心身の状態や特記などを洩れることなく把握している事が出来ている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランをもとに各担当者が目標を立て、目標が達成できるように取り組みしている。定期的にカンファレンスを行い、本人にとってより良い生活の為にモニタリングを行っている。	担当者によるモニタリング(プランの評価)をもとに毎月ケースカンファレンス(一人ひとりのプラン内容の検討会)で本人・家族等の意向に沿い、職員全員が参加して本人にとって何が必要なことか意見を出し合い、利用者が生きがいや楽しみ、役割・ふれあいを持ち続けて生活出来るようプラン作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末を用いて日勤者、夜勤者と申し送りをし状態の把握を共有すると共に日々の記録にもしっかり残している。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な方には主治医の相談のもと家族の意向を聞いてから、認知症デイケアの利用を支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診の際は、職員が付き添い報告書を掲示し、利用者の状態を分かりやすく伝える様努めている。	利用者は月2回かかりつけ医の往診を受けており、緊急時においても24時間体制で協力を得ている。他科受診についてはかかりつけ医の紹介状を持って受診するようになっている。週一回の訪問看護、薬局(薬の仕分け・配薬まで)はかかりつけ医を中心に連携を図り、訪問歯科による口腔ケア等も受け、家族等とも情報を共有して一人ひとりの健康管理ができています。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個別ケア記録の共有と何かあればすぐ連絡を取り合えるような手段を取っている。また、看護師からのアドバイスも主治医への報告もしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者一人一人の入院時情報提供書を作成し、救急搬送時に有効に使っている。病院から必要な情報を求められた時は迅速に対応を行っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>初回の契約の段階で重度化した時の意向の確認をしている。家族やご利用様の意向が変わった際は、その都度話し合いにより主治医の先生の意見を参考に進める事が出来ている。</p>	<p>入居時に利用者・家族等には看取りを行っていない事を伝え「終末期の意向確認書」「重度化した場合における対応」を説明し、意向の確認を行っている。また入居後の体調変化や要介護3になった場合など他施設等への移行確認を行い、切れ目のない支援に繋いでいる。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修などで急変時の対応や応急手当などの勉強を定期的に行っている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>実践的に消防の方や地域の方にも協力を得て、年に二回の避難訓練を実施している。</p>	<p>年2回の総合訓練を実施し、地域には訓練日を知らせ、区長には参加協力をもらっている。夜間時の対応は1ユニットで職員が一人となる為不安な面があり、職員の招集訓練を強化している。居室入り口に利用者の歩行状態を明示し、また備蓄や非常持ち出し品、ヘルメット、ストーブ等を整備し災害時へ備えている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人一人の個性を尊重し、その時々のお話や訴えに耳を傾け尊厳の保持が出来るような対応を日頃より心がけている。</p>	<p>一人ひとりの生活リズムやテンポに合わせて自己決定してもらい、何より職員から押し付けることなく、時間をかけて納得いくようコミュニケーションを大事にしている。トイレや入浴時はカーテンを備え羞恥心やプライバシーに配慮している。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様の話に耳を傾け、なるべく利用者様が自己決定できる様努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険な事以外は本人のペースを優先し、施設側の意向は押し付けないよう努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服のアドバイスをし、出来るだけ自身で行って頂く。出来ないところは本人の希望に沿うよう支援させて頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の手伝いや後片付けなどは、出来る方は一緒にすることが出来ている。	3食手作りで、担当職員が購入した食材でその日のメニューを決め、また利用者の要望を聞き四季折々に旬のものを大事にした食事となっている。行事食・誕生会・ラーメンの出前などの他、お菓子作りや茶わん洗いなど利用者は出来ることを手伝い食事を楽しみに暮らしている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と15時にお茶の時間を設けてはいるが、それ以外でも利用者様の体調を考慮して水分補給が出来ている。また、利用者様に合った食形態で栄養のある食事を提供できている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアを実施している。その際、出来る事は出来る限り本人に行って頂いている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	持っている力を生かせるよう排泄時も個々の能力に応じて、対応している。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを確認し誘導している。シルバーカーを使用して1人で行く方もおトイレでの排泄を大切にしている。夜間時はポータブルやオムツに変更する方もおり、転倒には十分気を付けて見守り、失敗しても尊厳を傷つけないよう対応している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らず、自然排便を促せるようにイーjeeファイバー等の食物繊維を取ってもらい、便秘の予防に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一人一人の生活リズムを乱す事のないよう本人の状態、状況に合わせている。</p>	<p>週2回を目安に時間を決めず好きな時間に入浴している。一般家庭のような浴槽なので安全のため9名全員がほぼ介助が必要で、中には2人介助の方もいる。職員は浴槽に入って温まってもらえるよう、ゆず湯や好みのお風呂剤などで工夫しながら支援している。拒否のある方には日にちや職員を変えるなど対応し清潔を保っている。</p>		
45		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>休みたいと希望があれば個々に応じている。また、表情や動作等見て疲労感のある方には声をかけて休んで頂いている。</p>			
46		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>提携している薬局と一人一人の薬剤管理と情報交換等を行っている。</p>			
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人一人に合わせた嗜好品の提供や今まで行ってきた仕事や趣味を活かし、楽しみを出来る限り近い形で提供出来るよう努めている。</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>現在はコロナの影響にてなかなか自由に外出は出来ない状況となっております。ただ、天候のいい時は希望者を募り近所を歩いて短時間の散歩をしています。</p>	<p>コロナ禍により自由な外出が難しい状況の為、ドライブは車から降りずに街の様子や花々を眺め気分転換を図っている。また建物のまわりを散歩したり、庭先のガーデニングなども楽しんでいる。研修で学んだミュージックケアを取り入れ音楽に合わせて体を動かすことでストレス軽減になり利用者に笑顔が見られている。</p>		
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>当事業所では金銭の所持はしないようにしている為、希望時や必要時は立て替え金として一旦お支払いしています。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族には事前に電話対応の了解を得ており、希望により電話をして頂いている。遠方の家族から荷物が届いた時等電話の要望があり、職員が対応しながらお礼の電話をしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花飾りで季節感を味わって頂き、自然と会話が弾む環境を作っている。室温は常に確認しながら適温に保っている。また利用者様の要望に対応できている。	広いホールは換気・温湿度・消毒等をこまめに管理し、利用者はテーブル席やテレビ前のソファなどでゆったり過ごしている。掲示してある利用者の写真は毎月変えて話題作りの一つになっている。新聞を楽しみに読んでいる利用者もおり寛げる空間になっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを観たり本を読んだり、新聞を読んでいたソファに座りテレビを観たりと気ままに過ごしている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や馴染みの物を置き使いやすい工夫をしている。家族が持参した写真を貼ったり、ポスターを貼ったり居心地のいい空間を提供出来ている。	居室はベッド・エアコン・押し入れが設えてあり、家族やペットの写真、自宅で使用していたものを持ち込み安心できるようにしている。掃除は職員が行い利用者はモップ掛けなどを手伝い、また担当職員と衣類整理をして季節に合わせた服装選びをしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々変化する利用者の状況を職員間で共有し、個々に合った自立支援を踏まえた支援を心がけている。			